

大分市地域まちづくりビジョン

植田地域まちづくりビジョンフォローアップ会議 通信 第1号

発行：令和元年10月15日 植田地域まちづくりビジョンフォローアップ会議事務局

この通信は、8月26日に開催した植田地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の内容について、地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の目的

個性を活かした魅力ある地域づくりを推進するため、市内13地域において、それぞれの地域が目指すまちの将来像やその実現に向けた取り組みをまとめた「地域まちづくりビジョン」が策定され、昨年7月に市長に提言されました。
地域まちづくりビジョンフォローアップ会議は、地域が目指す将来像の実現に向けて、市民と行政と一緒にまちづくりを進めるため「地域まちづくりビジョン」に掲げる事業について、「行政に望むこと」「地域でできること」「私たちができること」のそれぞれのテーマにおいて、進捗状況を報告し、各取組の今後の進め方や課題などについて情報共有、意見交換を行うものです。

令和元年度植田地域まちづくりビジョンフォローアップ会議

■令和元年8月26日(月)15:00～

■植田市民行政センター 大会議室

開会

1. 委員・事務局自己紹介
2. 会長・副会長選任
3. 会長・副会長あいさつ
4. 議事

- (1) 会議の公開について
- (2) 地域まちづくりビジョンについて
- (3) 地域まちづくりビジョンフォローアップ会議について
- (4) 地域まちづくりビジョンに掲げる事業の進捗について
- (5) 今後の予定について

5. その他

閉会



■地域まちづくりビジョンに掲げる事業の取り組み状況について(抜粋)

事務局から植田地域まちづくりビジョンの取り組み状況について、説明を行いました。
(植田地域まちづくりビジョンにつきましては、裏面に掲載していますので、ご覧ください。) ※事業番号も裏面に記載

【提言1】誰もが安全に安心して生活できる住環境の整備

- ◆長年放置されてきた宗方校区の無縁墓地について、正式な手続きを経て自治会で撤去のうえ管理を行っている。(事業1)
- ◆寒田校区にある「ネギタため池」は、地元からの要望を受け県が廃止に向けた整備に取り組む予定である。(事業1)
- ◆田尻橋や賀来橋の架け替え等の道路拡幅については、今後県などの関係機関と協議していく。また、市道大分港賀来線の2車線化は、交通ネットワークでの調整、検討を行っていく。(事業2)
- ◆安全安心な道路整備については、自治会等が地域の実情に応じて防犯灯や防犯カメラの設置申請を行っている。また、大分市通学路安全プログラムによる通学路の危険か所の点検を行っている。(事業3)
- ◆敷戸東住宅については、エレベーター設置の住宅へ建て替えを実施している。(事業4)

【提言2】快適で魅力あるまちづくりの促進

- ◆わさだタウンや支所と各大型団地を結ぶ路線バスの運行については、今後とも維持するよう公共交通事業者に働きかけを行っていく。(事業7)
- ◆高齢者などの外出支援については、市ではふれあい交通運行事業を実施しており、また、富士見が丘自治会連合会ではお出かけ交通を実施している。(事業7)
- ◆創業支援については、平成29年度から創業者応援事業7件、移住者支援事業7世帯が活用し創業につなげている。(事業8)
- ◆農地の活用・保全については、農地を貸したい人と借りたい人の中間的な受け皿となる県農地中間管理機構を活用し、耕作できなくなった農地等の集積、集約化を図っていく。(事業10)
- ◆地域行事の活性化については、各校区や各自治会が、地域まちづくり活性化事業、地域づくり交付金事業を活用して、様々な地域行事を実施している。(事業11)

【提言3】地域資源を活用した子育て環境の整備

- ◆七瀬川自然公園の整備については、今年度バーベキューエリアを設置しており、引き続き、遊具広場のリニューアルを実施する。(事業13)
- ◆霊山、青少年の森、七瀬川自然公園の自然観察コースについて、散策地図と観察できる動植物を紹介する「おおいた自然観察ガイド」を作成しPRを行っている(事業14)
- ◆「おしどり渓谷」セラピーロードの魅力をもっとPRするため、地域主催のフォトコンテストを開催している。(事業14)

■主な意見交換の内容 (抜粋)

《提言1関連》

- 市営県営などの公営住宅で、エレベーターが設置されていない箇所は植田地区にどれだけあるか。
⇒エレベーターが設置されていない3階建て以上の市営住宅は49棟ある。市営住宅は「大分市公営住宅等長寿命化計画」に基づいて、集約建て替えや修繕・補修等を行っているが、既存の住宅へのエレベーター設置は計画していないため、3階以上に住む高齢者や足の悪い方等から下層階への住み替え希望があれば対応している。
- 植田地区は防災会が全て設置されているものの、防災士の配置や防災訓練等の取り組みが全ての防災会で行われていない。
⇒日頃から防災意識を高めておくことは非常に大切であるため、万が一に備えて、防災訓練等を全ての防災会で取り組めるよう市としても支援していく。



《提言2関連》

- 平成30年度に行った敷戸駅と寒田団地などを結ぶ循環バスの実証運行の結果を受け、具体的にどうするのか。
⇒今回の実証運行では、地区内の移動や駅への接続、市中心部への移動など利用者のニーズを調査したが、期間中の利用は少なかった。今後は、移動需要を考慮し、既存の路線バスや列車との乗り継ぎなどの周知に努めていく。
- 耕作放棄地について、行政として罰則規定をつくることは可能か。
⇒市としては、罰則規定を作ることは難しいと考えている。今後、荒れていく農地が増えないよう、地域の農地は地域で守ることを基本に、集落営農や企業参入などの取り組みを進めていく。
- 農地の転用や基盤整備について、市としてどのように考えているか。
⇒昨年度の土地利用に関する市民の意見をもとに、農地法の範囲内で裁量の幅が広げられるよう、農地区分の見直しなど地域の実情を考慮し、適切な運用が行える体制を整えた。また、農業の生産性と効率を高める基盤整備はとても重要であるため、今後も地域と行政が一体となり整備を進めていく考えである。

《提言3関連》

- 国土交通省から七瀬川自然公園の河川プールの設置が難しいと言われた理由とは。
⇒河川敷が狭い等、河川の形状から集中豪雨時の急激な水位上昇などの影響が予想され、安全管理上の問題が大きいと考えられるとの回答であった。



～今後の予定(お知らせ)～

◆「ふれあい市長室」【植田地域】開催について

日時：10月29日(火) 19時から 場所：植田市民行政センター2階 大会議室

フォローアップ会議の内容を報告する「市民報告会」を兼ねた「ふれあい市長室」を開催し、地域住民からビジョンや市政全般に対する意見、提言を幅広く伺い、事業実施に向けた相互理解を深め、市民と行政の一体感を醸成します。

◆「シンポジウム」開催について

日時：11月23日(土) 13時30分から 場所：コンパルホール 3階 多目的ホール

地域まちづくりビジョンを広く市民と共有し、まちづくりの機運の醸成を図るため、子育て世代などの若い世代にも参加を呼び掛け、様々な世代が参加するシンポジウムを開催します。

今後は「自然があふれる 住みたくなるまち わさだ」の実現に向けた取り組みを推進していきます!

植田地域まちづくりビジョン 概要

我が国は、急速に少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎える中、大分市においても、今後、人口が減少に転じることが予測されており、地域の活力維持や地域コミュニティの希薄化など、さまざまな課題が懸念されています。これらの課題解決のためには、行政が地域の実情や意向等を的確に把握し、市政への反映に努めることが必要と考えております。

このような状況を受け、地域の活力維持・増進を図ることを目的として、市内13地域において、各地域の代表者等で構成する「地域ビジョン会議」を設置し、それぞれの地域の現状と課題などを議論し、市民主体のまちづくりを進めるうえで目指すべき将来像として「地域まちづくりビジョン」を策定しました。

～ 植田地域の将来像 ～

『自然があふれる 住みたくなるまち わさだ』

提言1 誰もが安全に安心して生活できる住環境の整備

住宅の耐震化やバリアフリー化の促進、非常時に備えた避難路の確保など防災面での対策を着実にを行うとともに、放置されているため池などの危険箇所や渋滞が発生している狭隘道路などの整備を推進することにより、誰もが安全に安心して生活できる住環境の整備が望まれる。

提言2 快適で魅力あるまちづくりの促進

少子高齢化の進行が見込まれるなか、コミュニティバスの充実など高齢者が安心して暮らすことのできる環境及び体制の整備を進めるとともに、大規模住宅団地を中心に増加している空き地・空き家を有効活用するなどあらゆる世代を地域に呼び込むことで地域行事の活性化など多世代交流の促進を図り、地域内で支え合えるまちづくりが望まれる。

提言3 地域資源を活用した子育て環境の整備

植田地域には霊山や七瀬川、県民の森など多くの自然があり、子育て世代を呼び込むためには、家族で楽しむことのできるこれらの資源を活用し、レクリエーション施設や健康づくりのための施設整備、自然を活かした教育環境を整備するとともに、女性が育児休暇から安心して職場復帰することができる子育て環境を充実することが望まれる。



植田地域まちづくりビジョン会議

平成30年7月策定

提言	事業番号	事業名	概要
提言1	1	生活環境の整備	・ 景観が悪い場所や危険性の高い場所の整備を行う（例：放置されている無縁墓地や決壊の恐れのあるため池） ・ 整備した場所を地域活動の場として活用していく
	2	道路整備 （渋滞の解消）	・ 田尻～八幡田間の道路拡幅工事および田尻橋の架け替え ・ 賀来橋の架け替えを含む賀来橋付近の道路拡幅 ・ 賀来～庄の原の道路2車線化
	3	道路整備 （安全安心な道路整備）	・ 敷戸弾薬庫付近の住民が災害や有事の際に迅速に避難するための道路拡幅 ・ 歩道や街路灯の整備など歩行者にやさしい道路整備を進める
	4	高齢者・障がい者等の 防災対策	・ 公営住宅の居住環境を整備（エレベーター設置など）してもらい、若年層の居住者を増やすことで災害時にも円滑に避難できる体制を構築する ・ 災害時の備蓄物資確保の取組や一人暮らしの高齢者、身体障がい者への支援体制の確保
	5	住宅耐震化の促進	・ 旧耐震基準の住宅所有者に対して、市の補助金の活用や耐震補強を実施しないことによる危険性をもっと広報し、安全な住宅を増やす
	6	バリアフリー化の促進	・ 公共施設以外の民間施設のバリアフリー化を推進してほしい
提言2	7	わさだ地区専用 コミュニティバスの運行	・ 公共交通の拠点機能（バスセンター等）強化や利便性向上に引き続き取り組むとともに、民間と行政の役割分担を整理する中で、コミュニティバスを充実させる ・ 買い物弱者対策としてわさだタウン・植田市民行政センターを経由するコミュニティバスを運行 ・ 大通りまで出なくても良い運行ルートを構築 ・ 民間だけでは運行が難しいため、行政による支援が必要
	8	若者（学生）を対象とした 創業支援	・ 創業場所として空き家・空き地を安価で賃貸できる仕組みを構築し、若年層の流入による経済発展と空き家対策を併せて実施する
	9	空き家・空き地を活用した 多世代家族の近居・同居	・ 団地内の空き地・空き家を活用し、多世代家族が近居・同居しやすい環境を構築 ・ 空き家バンク情報の活用など親世代との近居・同居に特化したマッチングを実施
	10	農地の活用・保全	・ 市街化区域と市街化調整区域の区分変更や用途地域の変更を含めた見直し ・ 耕作放棄地に対して土地の利便性による優先順位をつけて見直す
	11	地域行事の活性化 （市補助金の充実）	・ 地域の運動会など地域コミュニティの維持に寄与する行事開催に係る補助金の充実
	12	ITスキルの向上 （買い物弱者対策）	・ 買い物弱者対策として、地域の高齢者がインターネットショッピング等で買い物ができるようにITスキル向上のための講習会を開催
提言3	13	七瀬川自然公園の整備	・ 河川プールの整備やBBQなどレクリエーション機能の充実、健康器具の設置等により、若者から高齢者まで、多世代が集いやすい環境を整備 ・ 地域の防災訓練が実施できる環境整備
	14	県民の森など自然環境の 活用	・ 霊山一帯のウォーキングコースや川で、自然環境や水生生物の体験学習ができる環境を整備し、多世代交流を促進する ・ 植田地域の豊かな自然を有効活用できるよう環境整備に取り組む
	15	育児後の女性の職場復帰 促進	・ 女性の育休からの職場復帰の促進を図る補助金の創設 ・ こどもルームや一時保育の拡充 ・ 小中学校などで子どもをしっかりと預けられるような体制を整備
	16	子どもの教育環境の整備	・ 植田地区の老朽化した学校を、多様化する教育環境に対応した施設としてリノベーション及び改築を行う